

春焼き～火入れ

1. 実施日時 令和4年5月15日（日） 8：00～17：30
2. 実施場所 仁多郡奥出雲町佐白地内（ダムに見える牧場林地）
3. 参加者数 火入れ従事者10名
※参加者住所地（松江市、雲南市、奥出雲町、出雲市、大田市、飯南町／京都府）
4. 概要 10時10分着火、15時30分延焼終了、16時30分鎮火。
曇時々晴、最高気温21℃、湿度不明、風0～2m（着火時0m）。
火入れ面積約7アール。状況から完遂困難とみて区画を切り、予定面積（15a）の約半分を焼く。飛び火はなし。区画内は草木含めて完全燃焼。
5. 今後の予定
 - 未了となった部分について夏の火入れに向けての準備（竹の伏せ込み直し、草刈り等）
 - 播種、間引き、草刈り等栽培管理（在来タカキビ等の雑穀、果菜類、豆類等）
 - 奥出雲を中心としながらも関連する広域での在来作物調査、伝統食文化調査の継続
 - 地域の焼畑をはじめとした民俗知の多面的調査の継続（歴史、民俗、環境生態、山村の生活技術、信仰等）
6. 状況写真

▼人員配置・機械動作確認後、風下山手（区画の北西斜面上方）より着火。前日に天地返しした着火部は数分で火勢つくも、返しなしの部位に入ると弱まる。要所で若干の天地返しと材の寄せへ人員を投入。1時間後から火勢強まり延焼開始。



▼2時間後から火勢が強まり、かつ風向が林内方向へ向かい始めるなどしたため、区画内で材を切断、切断した竹を除き、火勢を弱め鎮火をまつ。切断除去部は左写真右部。



▼14 時前に再び切断部から着火。下段部への延焼をとめつつ、上段のみの延焼を促す。



▼15 時半には延焼終了、16 時 30 分鎮火、撤収に入る。17 時 30 分に鎮火再確認後、退去。



7. その他（経過と次回へ向けて検討事項等）

●春の火入れについて

- ・火入れ4日前から3日間で積算25mmの降雨があり、延期も検討したが、それ以前の段階で乾燥注意報が出るほどに乾いていたため、前日当日含め1日半ほどの曇まじりの晴天という気象条件が、結果、安全面から適した状態であった。
- ・竹は伐採から3年経過したものが9割以上であり、腐朽も進んでいるため、一度水を含んでも、空洞部を持った構造上、乾燥は早いことが改めて実証された。
- ・火入れ4日前の準備として、竹の堆積が厚いところの積み崩しと防火帯の青草刈であるが、降雨によりそのままとした。
- ・火入れ地は崖も含めた急傾斜地が過半であり、火のコントロールは難しい地形であったことなどから、開始2時間半後から、予定の半分での火入れとすること＝火をとめることに人員をさいた。
- ・面積や地形面などの条件が同じで、気象面では直前の降雨がなかった場合、安全に完遂するためには、従事者は15名ほどは必要と考慮する。

●時間経過

- 8:00 準備開始。タンクと背負水囊へ給水。道具・機械集約と各自備品確認。軽トラへの積み込み、参加名簿連絡先確認等。
- 9:00 全体ミーティング
- 9:10 現場へ移動。状況確認、エンジンポンプ・ホース・ノズル設置と放水テスト
- 10:00 火入れ式（風0m…火入れ局地／気温18℃／曇り／湿度不明）
- 10:05 北西斜面上部より着火。
以下、写真状況の説明をもってかえる。

†. 令和4年度竹の焼畑事業は「出雲の山墾り～竹の焼畑2022」と呼称。奥出雲山村塾、島根大学里山管理研究会、森と畑と牛と、ダムの見える牧場が主要主体となって取り組んでいる事業です。